

社会資本総合整備計画

^{いな}「^ひ稲むらの^{つな}火」^{みしゅうらい}津波襲来から^{ふっこう}復興を^と遂げた^{まち}街なみを
^い活かした、^{れきし}歴史と^{でんしょう}伝承が^{いき}息づくまちづくり(第1回変更)

^{わかやまけん}
和歌山県
^{ひろがわちょう}
広川町

平成30年 3月

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金）

平成30年 3月30日

計画の名称	「稲むらの火」津波襲来から復興を遂げた街なみを活かした、歴史と伝承が息づくまちづくり						重点配分対象の該当
計画の期間	平成29年度	～	平成33年度	(5年間)	交付対象	和歌山県、広川町	
計画の目標							

濱口梧陵が村の人々を守るために奔走した「稲むらの火」の物語と、広村堤防を築堤し村の復興に導いた防災の象徴的な事柄が伝わる、歴史と伝承が息づく良好な街なみ環境を向上させる。
 ・貴重な歴史的遺産と豊かな自然環境を活かした高質空間の形成による、来訪者がまちの魅力を感じられるまちづくり
 ・稲むらの火整備地区内外の町民が「稲むらの火」関連資産の魅力を感じ、郷土に対する愛着が持てるまちづくり

計画の成果目標（定量的指標）

- ・津波防災について学ぶ「津波防災教育センター」と濱口梧陵を称えた「濱口梧陵記念館」の合築施設「稲むらの火の館」の入館者数を28,481人/年（H27）から33,000人/年（H33）に増加
- ・語り部サークル（稲むらの火関連史跡）の案内回数を150回/年から165回/年に増加
- ・歴史的風致形成建造物の指定件数を3件（H28認定後予定）から6件（H33）に増加

定量的指標の定義及び算定式

稲むらの火の館の年間入館者数を集計する

語り部サークルの年間の案内回数を集計する

歴史的風致形成建造物の指定が予定される物件を調査し、指定した件数を集計する

定量的指標の現況値及び目標値

当初現況値 (H29当初)	中間目標値 (H31末)	最終目標値 (H33末)
28,481人/年	30,000人/年	33,000人/年
150回/年	158回/年	165回/年
3件/年	5件/年	6件/年

備考

全体事業費	合計 (A+B+C+D)	674百万円	A	670百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	4百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)	0.0%
-------	-----------------	--------	---	--------	---	------	---	------	---	------	---------------------------	------

交付対象事業

A 基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考	
									H29	H30	H31	H32	H33					
A-1	住宅	一般	広川町	直接	広川町	街なみ環境整備事業（稲むらの火整備地区）	地区施設整備（公園、広場、道路）、 歴史的風致形成建造物整備、 生活環境施設整備、水路美化、 電柱・街灯美化、町道美化等	広川町	●					●	670	1.25		
									合計					670	1.25			

B 関連社会資本整備事業（該当なし）

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H29	H30	H31	H32	H33				
									合計					0			

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H29	H30	H31	H32	H33		
									合計						

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H29	H30	H31	H32	H33		
D-1	地籍整備	一般	和歌山県	間接	広川町	広川町 社会資本整備円滑化地籍整備事業	面積 0.04 km ²	広川町	●	●				4	
									合計					4	

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考
D-1	街なみ環境整備事業（稲むらの火整備地区）（A-1）に先行して、土地の権利関係を明確にすることにより、事業の円滑な実施を図る。											

交付金の執行状況

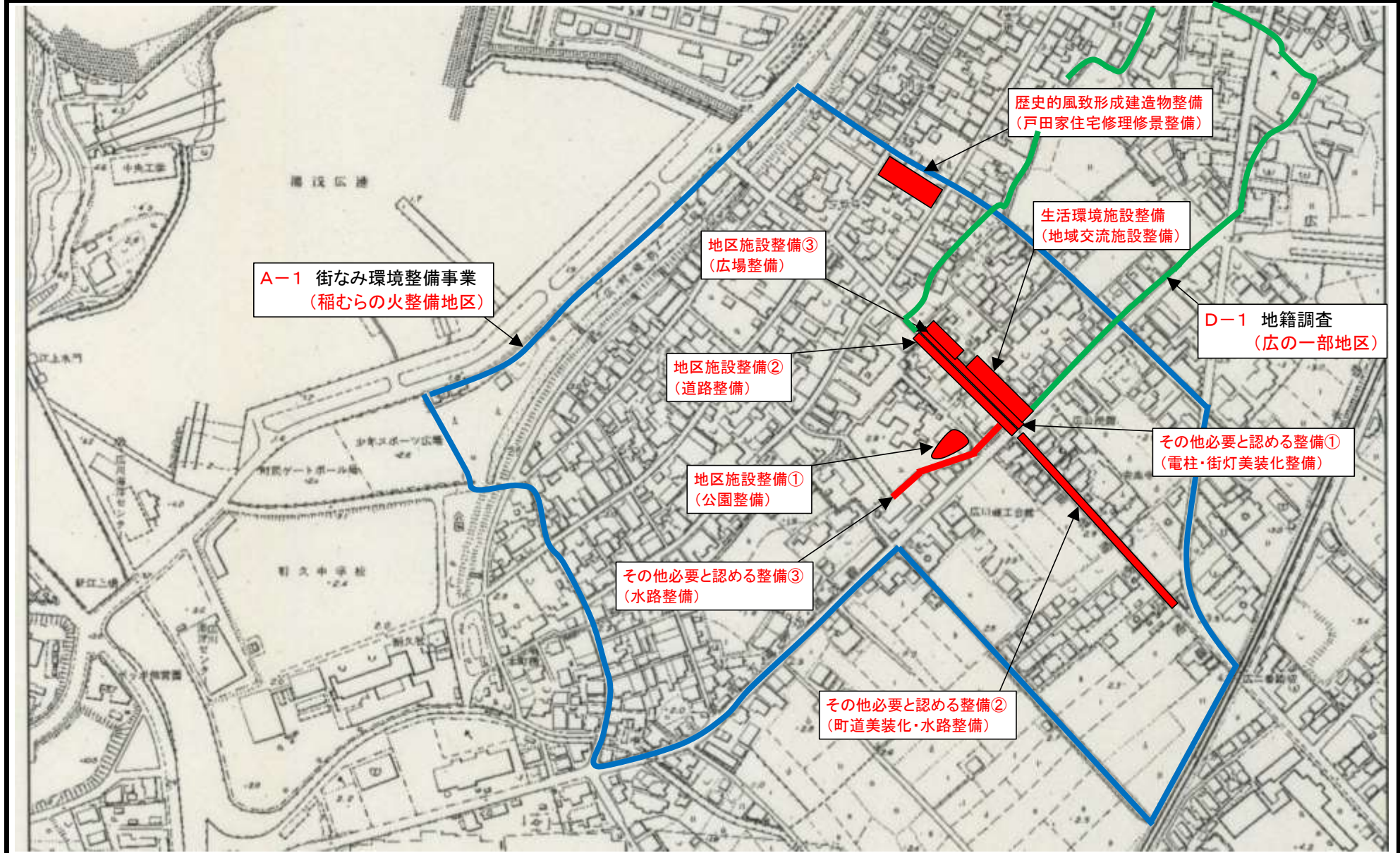
(単位:百万円)

	H29	H30	H31	H32	H33
配分額 (a)	14.725				
計画別流用 増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	14.725				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	3.572				
翌年度繰越額 (f)	11.153				
うち未契約繰越額 (g)	8.672				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	58.9%				
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	地元との法線 協議に不測の 日数を要し調 査測量設計業 務の着手が遅 延したため				

※ 平成29年度以降の各年度の決算額を記載。

(参考図面)

計画の名称	1 「稲むらの火」津波襲来から復興を遂げた街なみを活かした、歴史と伝承が息づくまちづくり		
計画の期間	平成29年度～平成33年度(5年間)	交付対象	和歌山県、広川町



社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称：「稲むらの火」津波襲来から復興を遂げた街なみを活かした、歴史と伝承が息づくまちづくり
 地方公共団体名：和歌山県、広川町

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との整合性が確保されている。	○
②景観形成を図るべき地域として位置付けられている又は位置付けられる予定である。 (地域名称等：広川町歴史的風致維持向上計画で認定された重点区域の一部)	○
③地域の住宅・建築ストックや住環境整備の状況等、現状分析が適切になされている。	○
④地域の住宅政策上の課題を的確に踏まえた目標となっている。	○
⑤緊急性の高い課題に取り組む内容となっている。	○
(該当するものに○) ア 老朽化した住宅ストックの更新 イ 安全面、衛生面等の居住環境の改善 ウ 子育て世帯、高齢者、障害者等の居住の安定の確保 エ 既存住宅ストックの有効活用 オ まちなか居住の推進 カ 地方定住の推進 キ 住宅・建築物の安全・安心確保 <input checked="" type="checkbox"/> ク 良好な住環境の整備 <input checked="" type="checkbox"/> ケ 地域の特色ある街並みの整備 コ その他(防災機能の向上)	
II. 計画の効果・効率性	
①事業内容は、計画の目標を達成する上で適切なものとなっている。	○
②十分な事業効果が得られることが確認されている。	○
③事業効果は、数値、指標等を用いて客観的に示されている。	○
④地域の実情に応じた創意工夫に基づく事業が盛り込まれている	○
III. 計画の実現可能性	
①事業熟度が十分である。	○
②計画内容に関し、住民に対する説明等が行われている。	○
③事業の実施に当たり、自治会、商店組合など地元組織との連携が図られている。	○

街なみ環境整備方針説明書

平成 29年 3月

都道府県名		和歌山県		ふりがな 市町村名		ひろがわちよう 広川町		ふりがな 区域名		いなむらのひせいびちく 稲むらの火整備地区		
地区 現 況	地区の概況		<p>広川町は、豊かな自然に囲まれた温暖な地域に位置している。室町時代には守護所が置かれ市街地の基盤が整えられた。中世には「蟻の熊野詣」と形容されるほど熊野参詣が盛んとなり、広川町は熊野参詣道の要諦で、紀伊名所図会には鹿ヶ瀬峠を行き交う多くの人々が描かれている。</p> <p>稲むらの火整備地区は、安政元年の大津波から村人を救った「稲むらの火」の物語が伝わる地域である。津波災害から復興を遂げた街なみとともに、津波防災の象徴といわれる史跡広村堤防や重要文化財建造物が残り、歴史と伝承が息づく地域である。</p>									
	道路の現況		<p>当区域は一般国道42号線に接しており、区域中央部は県道御坊湯浅線が横断し、市街地中央部を県道湯浅広港線が貫いている。伝統的な建造物が残る広地区周辺の道路は、従来の幅員を保ち、中世の地割が残っている。地区内道路は一部景観舗装で整備され、歴史的景観を形成している。</p>									
	公園等の現況		<p>地区内には、東濱口公園があり、周辺埋立地には公園が2か所設けられている。</p>									
	地区住民のまちづくり活動の概要		<p>平成27年12月に国連で制定された世界津波の日(World Tsunami Awareness Day)制定、また平成28年10月3日には歴史的風致維持向上計画が認定となり、これを契機に、津波防災の聖地、広川町を世界的に発信する好機と捉えている。</p>									
地区 の 整 備 に 関 す る 基 本 方 針	整備の目標		<p>濱口梧陵が村の人々を守るために奔走した「稲むらの火」の物語と、広村堤防を築堤し村の復興に導いた防災の象徴的な事柄が伝わる、歴史と伝承が息づく良好な街なみ環境を維持向上させることを目標としている。</p>									
	整備の時期		<p>平成29年度～平成33年度（5年間）</p>									
	に地 関区 す施 る設 基等 本の 事整 項備	通路等		<p>・地区内における主要道路の幅員4m未満となる箇所の拡幅・美装整備を実施することにより、地域住民や観光客の周遊性の向上を図る。</p>								
		小公園等		<p>稲むらの火の館(町施設)横にある老朽建物を撤去して、地域住民や観光客の憩いの場となり、また歴史的街なみに配慮した公園整備を実施する。また、周辺の街なみ整備が、より魅力的になるように、上記の道路整備沿いに、周辺を交流するための広場整備を実施する。</p>								
		その他		<p>稲むらの火の館前に周辺住民や観光客の交流を目的と、また歴史的街なみに適合した地域交流施設(観光案内所、集会施設等)を整備する。 稲むらの火の館周辺の電柱、街灯を歴史的街なみに調和した美装整備を実施する。 稲むらの火の館から広八幡神社へと続く道路の美装化、及び道路に並行する水路蓋の美装整備をすることにより、地域住民や観光客の周遊性の向上を図る。 稲むらの火の館横の水路を、上記で整備する公園や街なみに調和した美装整備をする。</p>								
	関住 す宅 る等 基の 本整 事備 項に	住宅		<p>良好な街なみ景観の形成や歴史・文化の周知を図るために、町所有の歴史的風致形成建造物を修理・修景整備する。</p>								
		敷地		<p>_____</p>								
その他の事項		<p>当区域は歴史的風致維持向上計画の重点区域の一部でもあり、広川町における歴史的風致の維持・向上に必要な施設が数多く残されている。その施設の一部整備や新たな施設整備等により、歴史的風致の維持向上に資する環境の維持、まちなかの周遊機能向上など、地元住民や観光客が本町特有の風致を感じられるような整備を本事業により推進していく。</p>										

別紙 (位置図) 街なみ環境整備事業(稲むらの火整備地区) 平成 29年 3月

都道府県名	和歌山県	ふりがな	ひろがわちよう	ふりがな	いなむらのひせいびちく	事業主体	広川町
		市町村名	広川町	区域名	稲むらの火整備地区		

案内図



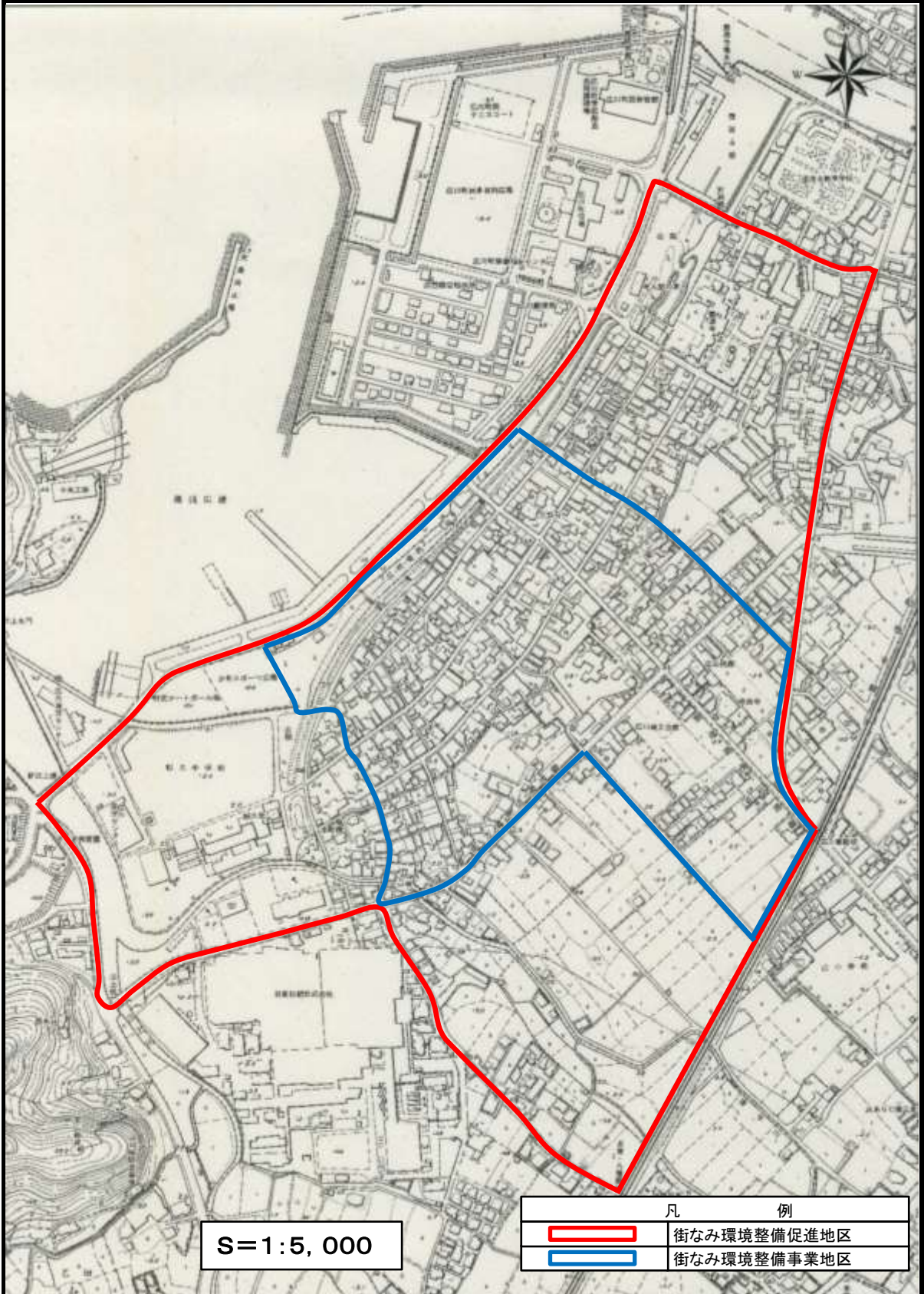
位置図





街なみ環境整備事業 区域図

平成 29年 3月

都道府県名 和歌山県	ふりがな 市町村名	ひろがわちよう 広川町	ふりがな 区域名	いなむらのひせいびちく 稲むらの火整備地区	事業主体 広川町
------------	--------------	----------------	-------------	--------------------------	----------



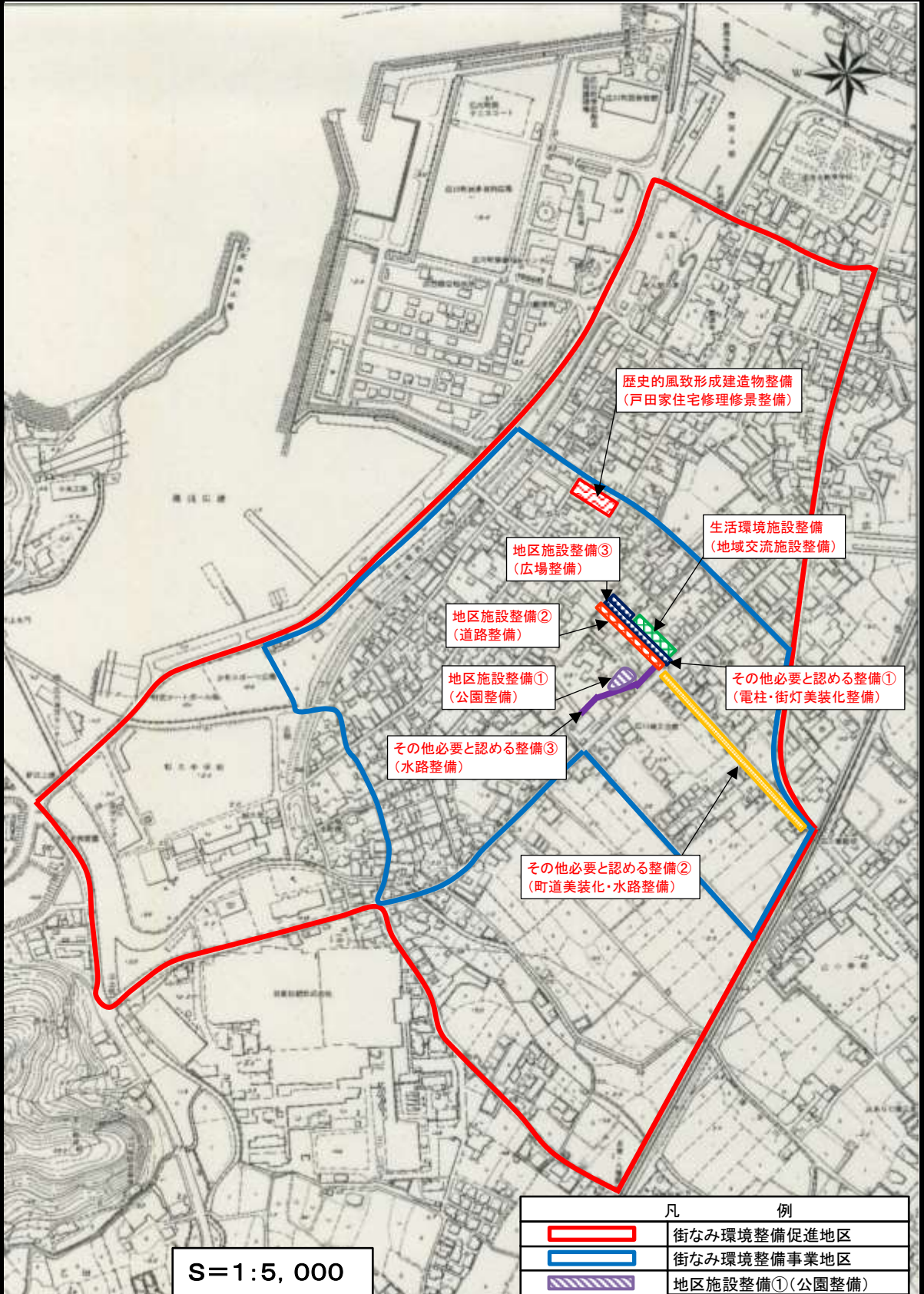
S=1:5,000

凡 例	
	街なみ環境整備促進地区
	街なみ環境整備事業地区

街なみ環境整備事業 整備方針図

平成 29年 3月

都道府県名 和歌山県	ふりがな 市町村名 ひろがわちよう 広川町	ふりがな 区域名 いなむらのひせいびちく 稲むらの火整備地区	事業主体 広川町
------------	-----------------------	--------------------------------	----------



凡 例	
	街なみ環境整備促進地区
	街なみ環境整備事業地区
	地区施設整備①(公園整備)
	地区施設整備②(道路整備)
	地区施設整備③(広場整備)
	生活環境施設整備
	歴史的風致形成建造物整備
	その他整備①(電柱・街灯美化)
	その他整備②(町道美化・水路整備)
	その他整備③(水路整備)